

# 日曜大殿説教

## 「法然上人とそのお弟子たち」

平成二十九年八月十三日（日）午前九時～九時五〇分

天然寺住職 後藤 尚孝

### 「讃題」

生けらば念佛の功つもり、死なば浄土に参りなん、とてもかくても  
この身には思い煩ふことぞなしと思ひぬれば死生煩いなし

## 法然上人のお弟子たち

『法水分流記』佛子静見勘録 永和四年戊午卯月十四日

### ○白川門徒

芳蓮房信空

『信空上人伝聞の御詞』信空が伝聞した法然のことは

称名念佛のみが往生を定めるものであることが述べられている

（往生の生因）

### ○多念義（又は長樂寺義）

隆寛 長樂寺律師 法然上人往生時六十五歳 往生八十歳

少納言資隆息子

### ○鎮西義（人は筑紫義と号す）

聖光房弁長（弁阿） 浄土宗第二祖

はじめは證眞法印に天台を学び、後に法然上人の浄土門  
に入る 隨遂八ヶ年後に鎮西の地へ下向、後に光明寺に  
住し、筑紫上人と号す 七十七歳で往生

然阿良忠 浄土宗第三祖

別名記主禪師と尊称される祖聖光から浄土の教学を  
伝授、専修念仏を治めると共に、多くの宝典を注釈し  
浄土宗鎮西派の教学の大成者

○一念義

成覚房幸西

往生八十五歳 阿波配所 三十六歳の時遁世、法然上人  
の弟子となる

○大谷門徒（一向宗と号す）

親鸞（善信）

大谷本願寺に住す 本慈鎮和尚門人 法然上人往生時  
四十三歳 往生九十三歳 教行信證文類六巻製作  
越後国配所

○嵯峨門徒

正信房湛空

二尊院に住す 本願円頓戒相承公全律師也 後に信空の  
弟子となる 法然上人往生時三十七歳 七十八歳にて  
往生

○西山義（小坂義）の祖

善惠房證空

西山往生院に住す 法然上人往生時三十六歳 七十一歳  
にて往生す 選択集選述の時の勘文役

○紫野門徒

勢観房源智

紫野に住す 法然上人往生時三十歳

○九品寺義（諸行本願義）の祖

覺明房長西

九品寺に住す 生れは讚州西三谷 九歳上洛 十九歳

出家 法然上人往生時二十九歳 その後西山門人となり

義絶後覺愉との諸行本願義を立つ

## 法然上人の直弟子

真觀房感西 十九歳で入室した法然の常在給仕の弟子

文才に秀でた進士の入道であり、選擇集撰述にあたり  
つては安樂房遵西に代わって第四章段から十六章段  
までの執筆を命ぜられている 世壽四十八歳

俊乗房重源 東大寺建立

金光 奥州 石垣

法本房行空 美濃に住す 一念義を立てて佐渡へ配所

◎以下四人被誅ひちゆうの時各々不思議現わる

善綽（西意）撰州ひちゆうにおいて被誅

頸落後流出の血より蓮華出生

安樂坊遵西 江州馬淵ひちゆうにおいて被誅

頸落後改めて合掌廻念百人を三遍

住蓮 同所被誅ひちゆう

頸放光頸落の後高声念仏十餘遍

性願 同所被誅ひちゆう

頸落後口より白蓮花出生

## 法然への報恩と念仏の継承

法然の往生の後、弟子たちにとって重要なことは自分たちを導いた祖師の言説、行状を明らかにしておくことであった。消息や法話の収集編纂、そして伝記の撰述、さらに行状絵の制作である。それまで独立した主題として製作されることの無かった僧伝の絵巻という形式をどのように発想したのかは興味のあるところだが、嘉禎二年（一二三七）に初めての高僧伝絵としての法然伝絵「伝法絵」が製作された。これ以後、内容に小異のある異本が成立していくが、その背景には、弟子たちの分派が関係している可能性がある。

一方、祖師に対する信仰のよすがとしての肖像の制作が行われる。在世時に描かれた画像、ないし自賛の画像が四十八卷伝に述べられるが、現存本で在世時までさかのぼる画像はない。ところで四十八卷伝に描かれる法然の相貌は、ある時期に统一的に描き変えられている。その頃教団として確立し、公式の画像を措定する必要があったのでは無かるうか。しかしながら画像にまつわる説話と共に変化はみられる。

その弟子たちの動向であるが、大きく三つの流れがある。筑後善導寺を開いた聖光房弁長の流れ、あおの粟生光明寺を継承した善恵房証空の流れ、そして浄土真宗の親鸞の流れである。四十八卷伝では、親鸞への言及は全くなく、逆に前二者には一卷全体を行状期に当てている。その後教団は大きく発展し、近世には將軍家の帰依を得て、数多の文化財を伝えている。

法然上人八百回忌

特別展覧会「法然 生涯と美術」より